

慈恩寺 Times

第32号

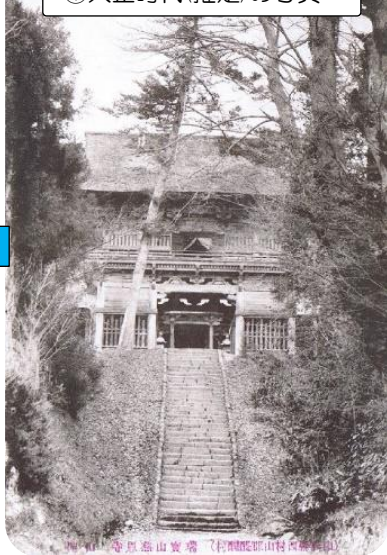
【発行】
 寒河江市慈恩寺振興課
 【発行日】
 令和元年5月20日(月)
 【問合せ・ご意見等】
 寒河江市慈恩寺振興課
 TEL:0237-86-2111(内線 452)
 E-mail :jionjishinko@city.sagae.yamagata.jp

史跡整備等 基本設計を終え、実施設計へ

②伐採前の現場(昨年5月撮影)



①大正時代(推定)の写真



新年度に入り、史跡整備も2年目を迎えました。

昨年度は、史跡整備とガイダンス施設整備の基本設計作成や、危険木・景観支障木の伐採を行いました。

3月に実施した山門前石段の立木伐採では、石段下から山門がはっきり見えるようになりました写真③。石段下の電柱も今後移設予定で、昔のような景観写真①に近づく見込みです。

③伐採後の現場



また、本堂裏等の立木伐採や枝払いにより風通しを改善し、倒木のリスクを下げることで、江戸時代からの建造物を次の世代に伝えていけるよう図りました。

今年度は、ガイダンス施設の実施設計、山門前石段修復に向けた実施設計作成と修復工事を行います。

ガイダンス施設設置に向けては、設計の打合せを重ねているほか、4月には教育委員会生涯学習課で遺跡調査を実施しました下記記事。

石段修復では、遺跡の有無を確認しながら設計し、大事な遺跡は適切に守りながら通行の妨げになっている石段の凹凸や漏水を直す工事を行います。

整備により、慈恩寺旧境内のたたずまいを次の世代に伝えていけるよう努めます。順次整備されていく史跡の姿もぜひご覧ください。

仁王池現る！

ガイダンス施設建設予定地で、4月中旬に教育委員会生涯学習課が遺跡の有無を調査しました。

この敷地の東部にはかつて仁王池がありました。場所が分からなくなりましたが、そこで、池の場所を探る調査を行いました。

近隣の皆さんから教えていただいた場所を調べて見ると、水が湧き出てきて、水脈が確かにあったと考えられます。また、昭和時代の池の実測図も紹介していただき、形を明らかにすることができました。

仁王池跡の湧き水



“令和初”の一切経会 三重塔も公開



舞楽「安摩」

5月5日(日・祝)、慈恩寺境内で一切経会が行われ、慈恩寺舞楽が谷地の林家と慈恩寺一山の人々により、8番奉奏されました。当日は天候に恵まれ、例年よりも多くの人が見守る中、厳粛に法会や舞楽が行われました。

また、新元号を記念し、5月1日から6日まで三重塔も特別に公開されました。期間中は約4,800人が訪れ、安置されている大日如来像や塔の雛形模型に見入っていました。



三重塔拝観者の列

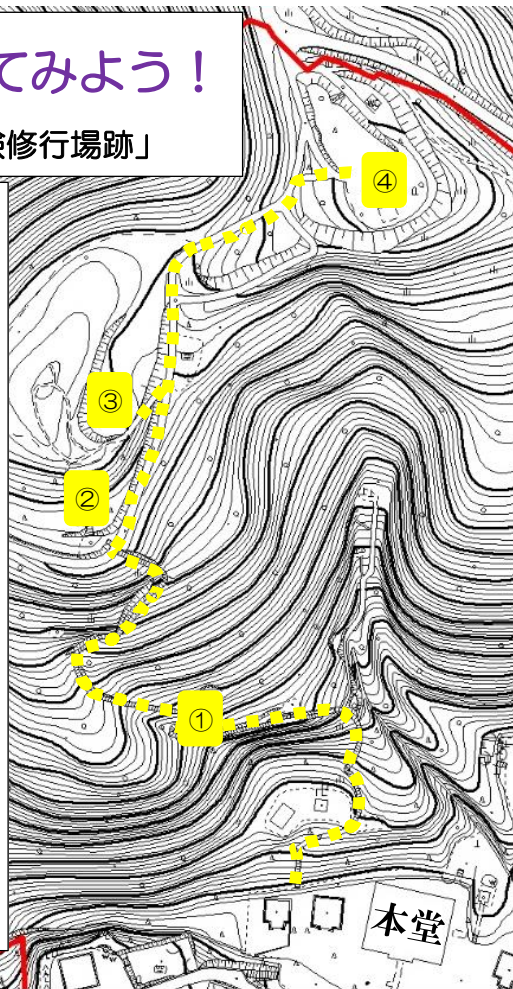
慈恩寺を歩いてみよう！

「本堂裏山の修験修行場跡」

慈恩寺旧境内は、江戸時代の絵図に描かれた様子が良好に残っていることから国史跡に指定されました。

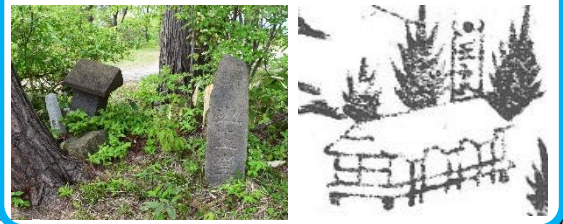
江戸時代や明治時代に描かれた慈恩寺の様子と今の様子を見くらべて、慈恩寺を歩いてみましょう。

今回は、旧暦4月末から約1ヶ月間(おおよそ今の6月頃)行われていた慈恩寺修験の修行場跡を紹介します。

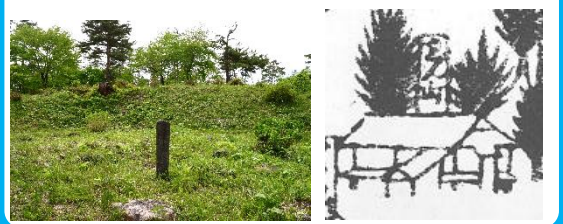


④「尾山楯」があった場所です。慈恩寺を囲む7つの楯の1つです。

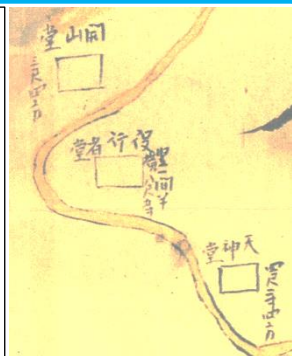
また「山王堂」が置かれている所でもあり、修験の修行では、ここで相撲などが行われていました。



③慈恩寺修験の一の宿である「新山堂」があった場所です。慈恩寺の山伏たちはここを拠点として修行に励んでいました。建物の礎石が現存しています。



①修行参加者は、最初、裏山の白山堂に向けて、本堂前から上っていきます。道の途中には、天神堂、役行者堂、開山堂があり、修験修行でお参りする所でもありました。



②「白山堂」があります。今の建物は昭和期に移築したのですが、江戸時代の修験修行ではここで柴燈護摩を行い、国家安泰などを祈願していました。

慈恩寺では、現在も秋に柴燈護摩を行っています。

